ヤング

浜田医療センター付属看護学校

小・中・高校生から専門学校、短大、大学の学生まで、若い人たちの意見を特集するコーナー「ヤングこだま」です。今回も浜田医療センター付属看護学校2年生の皆さんです。学校、学級単位での投稿を募集しています。投稿希望の学校は「ヤングこだま」係・電話0852（32）3305までご連絡ください。

励まし寄り添える看護師に

2年　小原　未久

入学して1年、今は親元を離れて暮らしていますが、今までたくさん親に助けてもらっていたんだなと実感しています。

学校から帰宅しても、家には誰もいない寂しさや、掃除、洗濯、料理も自分でこなさなければならず、最初は不安でしたが、料理は母から教わっていたので苦痛ではなく、勉強の息抜きのように感じています。

入学当初は、勉強と自炊をきちんと両立させ、学んだことを臨床で生かせるように知識や技術を身に付けていきたい、自分と関わった方々への感謝の気持ちを忘れずに3年間頑張っていこう、と決めていました。

しかし、今は学校にも慣れ、もう2年生になりました。学校では覚えることが多く、実習でも看護師になることの難しさを痛感しました。先輩方の姿を見て、私は本当に看護師になれるだろうかと不安になりました。

病院の実習で見た看護師さんは皆知識が豊富で、明確な根拠や目的を基に援助を実施されていて、その素早さに圧倒されました。しかし、ここでくじけるのではなく、今自分に何が足りないのかが明確になったので、まず自分が興味を持った病気から勉強し、理解を深めていきたいです。

また、学んだ援助技術はしっかりと体にたたき込み、臨床では基礎をもとに応用力を身に付けていきたいです。実習で患者さんが「立派な看護師になってね」と未熟な私を励ましてくれたので、今度は私が患者さんを励まし、寄り添える看護師になりたいです。

出会えた仲間たちを大切に

2年　田中彩也音

今、私はうれしく思っています。その訳は、まずずっと興味があった看護の勉強ができていることに対してです。人体の構造や疾病論などの座学だけでなく、実際に寝衣交換や全身清拭、体位変換などの実技練習や、実習で臨床の場に出てさまざまなことを学ぶことができたからです。

また、看護の勉強は日常生活でも役に立つ場面が多くあります。自分の身の周りの人たちが体調を崩した時、心身面だけでなく、生活面や栄養面など、さまざまな視点からアドバイスできるようになったり、なぜ体調を崩してしまったかという根拠も分かるようになったりと、知識が身に付きやすい分野であると感じています。

そして、私が今こうして看護学校に通い、授業を受けられるのも親のおかげで、感謝でいっぱいです。看護の勉強をしっかりして、実習でさまざまな学びを自分のものにし、3年間頑張って国家試験に合格して立派な看護師となり、いつか親に恩返しができるよう、一日一日を大切にしていこうと思っています。

私がうれしく思っていることはもう一つあります。それはこの学校の仲間たちに出会えたことです。この学校を選んで良かったと思う理由の一つでもあり、ここに来なかったら出会えなかった仲間たちを大切にしていこうと思っています。

グループ活動も多く、みんなで協力して一つのものを仕上げるたびに、仲間との絆も深めることができます。あと2年間、クラスの誰一人欠けることがないよう、みんなで助け合い、慰め合って、たくさんの壁を乗り越えていきたいと思っています。

学校生活1年を終えて

個々の患者に合った援助を

2年　田中　鈴乃

入学して1年、初めはついていけるか、とても不安でした。最初の実習では患者さんとうまくコミュニケーションが取れず、技術では患者さんに合わせた援助を考えて工夫し実施するのに苦労しました。

でも、さまざまな知識を吸収していくうちに、習ったことがつながってさらに理解でき、技術ではなぜそうなるのか、根拠が分かると面白くなって、もっと知りたいと思うようになりました。

また、3年生さんに教わる授業では、スムーズに手際よくこなし、患者さんの意思を尊重し、根拠がきちんとある援助をされているのを見て、私も先輩のようになりたいと思いました。

看護師は人の身体や命を扱う、とても責任のある仕事だけど、その分、やりがいがあると思います。誰かの支えになって命をつなぐ仕事でもあり、経験がないとできません。そんな仕事に就くためには、私にはもっとしっかりとした知識と質の高い技術が必要です。

また、援助を行うには患者さんとの関わりが絶対的なので、コミュニケーション能力も必要になります。患者さんの一ニズを尊重、傾聴し、この看護師になら任せて安心だと思われるような関わりをしていきたいです。

知識や技術面では一日一日を大切に使い、学んだことを自分のものにできるように努力していきたいです。技術はただ数を多くこなすだけではなく、さまざまな患者さんを想定して、その方に合った援助をするための工夫を見つけていけるようにしたいです。

心と心で向き合い日々努力

2年　渋谷　優衣

気付いた時から「看護師になりたい」と思っていましたが、母が買い物中に突然倒れて救急車で運ばれた時、「私が助けなきゃいけないんだ」と不意に思い、その時から本格的に看護師を目指そうと決心しました。

入学する前はただ患者さんに注射をして寝衣を替えたり、おむつを交換したりするだけの仕事だと思っていました。しかし、入学してみると、学ばなければならないことが多すぎて、くじけそうになった時も多々ありました。それほど看護師という仕事は大変なんだなと改めて感じました。

病院での実習もこれまで2回行いましたが、何よりも大切なのはコミュニケーションを取ることだと気づきました。普段コミュニケーションを取っているのは同い年の人や先生方が多いため、初めて受け持ちの患者さんと話した時は、どのように接すればよいのか分かりませんでした。

その患者さんは難聴の方だったので、言葉で話すのではなく、ジェスチャーや紙に書いて会話をしました。いろいろなコミュニケーションがあり、その人に合わせて行うことがより良いコミュニケーションが取れることにつながるのかなと思いました。

患者さんは一人一人性格も生きてきた時代背景も違います。それをどう受け止め、どう援助していくのかを判断する重要な役割が看護師にはあると思っています。患者さんと心と心で向き合い、傾聴と共感を大切にし、立派な看護師を目指してこれからも日々努力を重ねていきたいと思っています。